

令和2年度

教育現場における北方領土教育に関する 実態調査 結果のポイント



独立行政法人北方領土問題対策協会

調査の概要

1. 目的：教育現場における北方領土に関する学習の課題や需要等を明らかにし、今後の学習の強化に貢献させる。

2. 調査対象・回収数：全国の国公私立中学校（10,236校）の社会科担当主任級教員（各校につき1名）

※1 義務教育学校94校、中等教育学校53校を含む。

※2 主任級教員に該当する教員がない場合は、主任級に準ずる教員を対象とした。

3. 有効回収数（率）：4,691校（45.8%）

4. 調査方法：WEBアンケート調査

※ 各校宛てに依頼状を郵送し、社会科担当主任級教員1名にオンラインで回答して頂いた。

5. 調査期間：令和3年1月9日～2月5日

6. 調査項目

- ・北方領土に関する教育の現状について pp. 2～4
- ・北方領土に関する教育の課題・要望について p. 5
- ・教育現場における啓発事業の認知度について p. 6
- ・教育現場における交流事業の認知度について p. 7

調査結果概要

～北方領土に関する教育の現状について①～

結果

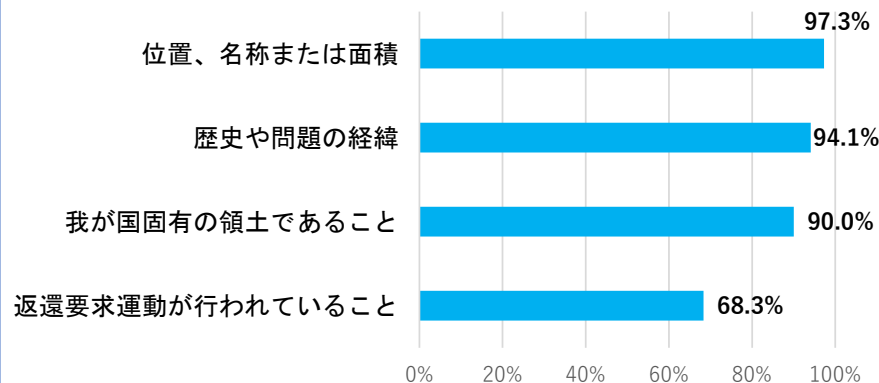
- ◆授業においては、**基本的な情報**は取り上げられている。（結果１）
- ◆使用している教材としては、教科書を使っている学校がほとんどだが、中には**独自に作成した教材**を使っている学校もある。（結果２）



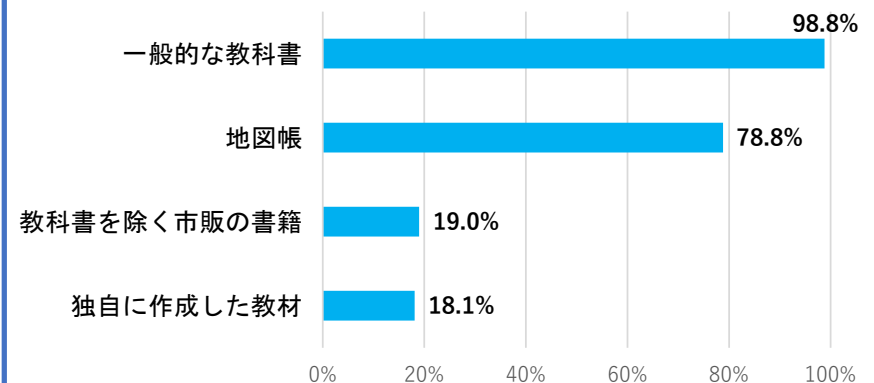
今後に向けたポイント

- ◆授業で基礎知識を**学ぶ機会を提供し続ける**だけでなく、返還要求運動の取り組みも紹介し、**運動をより身近に感じてもらう**ことが大切。
- ◆授業で活用できる**学習素材の提供**を進める（ＩＣＴを活かした教材の作成等）

結果１ 授業で取り上げている内容（複数回答） (n=4,597)



結果２ 使用している教材（複数回答） (n=4,597)



調査結果概要 ～北方領土に関する教育の現状について②～

結果

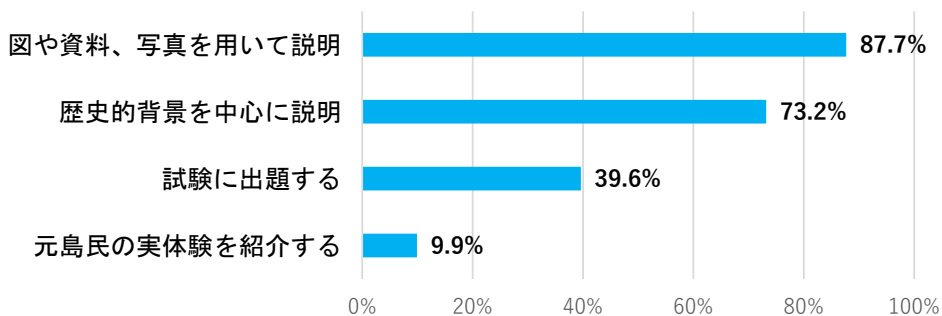
- ◆授業で工夫している点では、**図や写真**などを用いて紹介することが多い反面、**元島民の実体験**を紹介している授業は少ない。（結果3）
- ◆授業での説明が難しいのは「**外交関係**」が多い。（結果4）



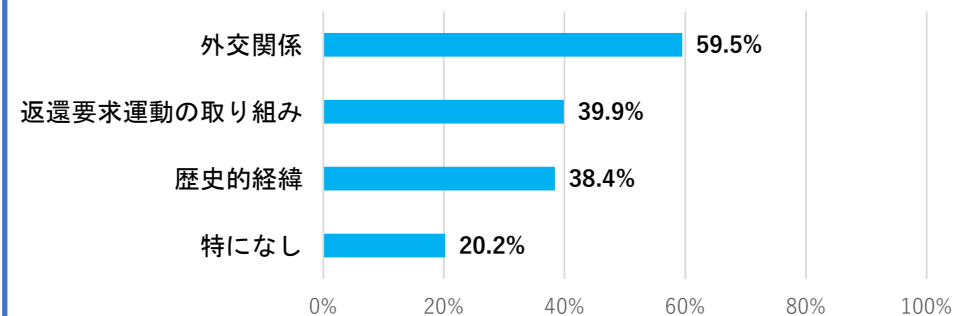
今後に向けたポイント

- ◆北方領土について**身近に感じられる素材**（写真や動画等）の提供を強化し、生徒の関心・興味を向けさせることが大切。
- ◆**元島民の実体験**も知ってもらうことで、北方領土問題の**自分ごと化**につなげる。
- ◆説明が難しいものほど**視覚的に理解しやすい資料**の活用を！

結果3 授業で工夫しているポイント (n=4,597)



結果4 説明が難しいポイント（複数回答） (n=4,597)

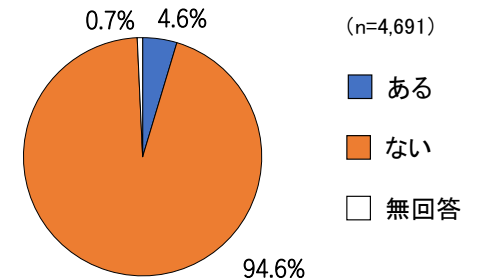


調査結果概要 ～北方領土に関する教育の現状について③～

結果

- ◆授業以外の教育の場（総合学習等）で「北方領土」をテーマとして取り上げた学校は、**ごく少数**。（結果5）
- ◆授業以外の教育の場で取り上げたきっかけは、「**教員の自発的なものによるもの**」が約半数。（結果6）
- ◆取り上げない理由としては、「授業計画の都合上、**時間が無いため**」が最多。（結果7）

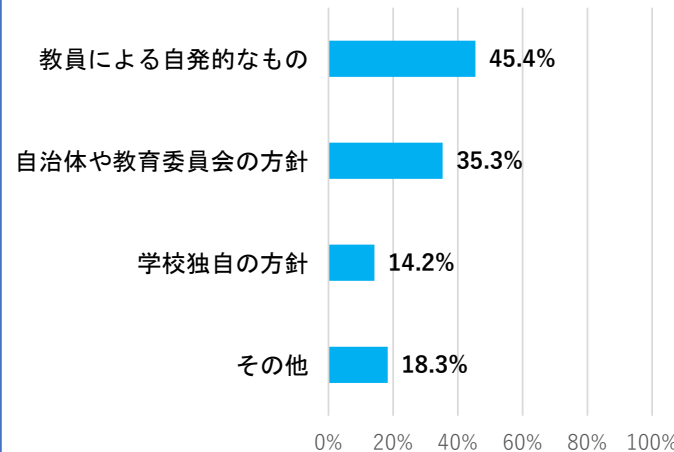
結果5 「北方領土をテーマとした独自の教育の場」を設けた経験の有無



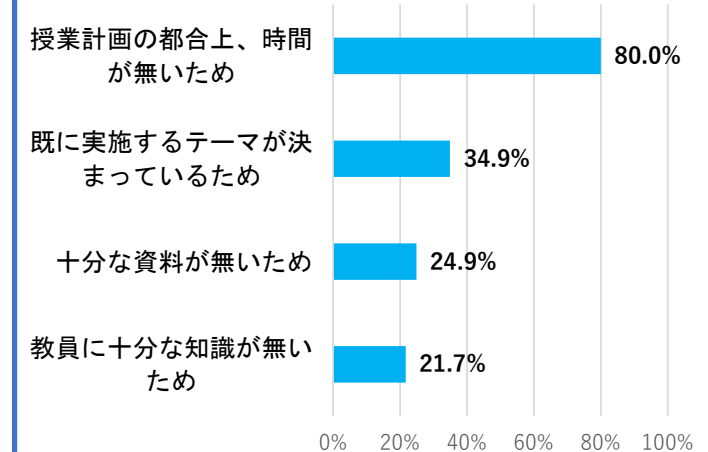
今後に向けたポイント

- ◆取り上げた実績のある学校の**学習モデルの発信・共有**を！
- ◆学校内で教員の自発的な**取り組み例を共有**し、独自の取り組みを継続させていくことが大切。
- ◆各地域の自治体・教育委員会は北方領土問題をテーマとした**学習の推進奨励**を！

結果6 「北方領土をテーマとして独自の教育の場」を設けたきっかけ（複数回答） (n=218)



結果7 「北方領土をテーマとした独自の教育の場」を設けない理由（複数回答） (n=4,439)



調査結果概要

～北方領土に関する教育の課題・要望について～

結果

- ◆教育現場で必要なのは、**北方領土の過去と今がわかる視聴覚的資料**。（結果8、9）
- ◆また、半数以上は「**元島民の実体験を知ること**も必要である」と回答。（結果9）
- ◆返還要求運動につながるために必要なことは、「生徒が**自分ごと**として**捉えること**」が最多。（結果10）



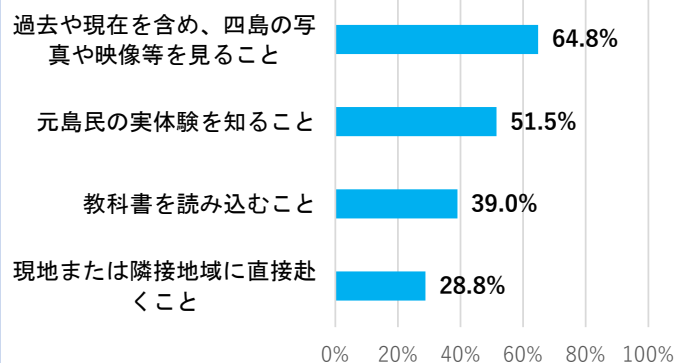
今後に向けたポイント

- ◆**写真や映像、元島民の体験談**などは授業で積極的な活用を！

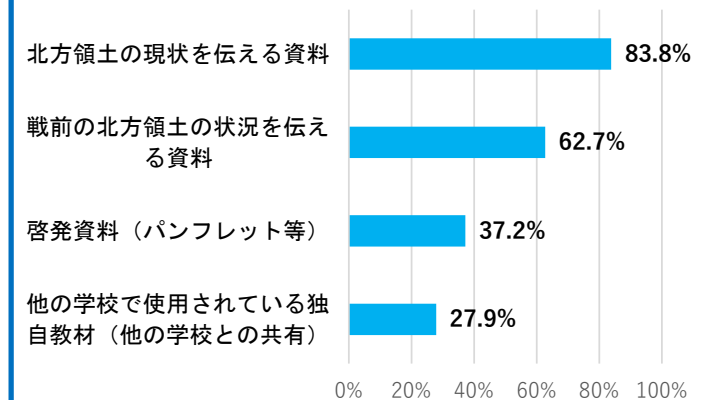
上記資料は（独）北方領土問題対策協会のサイトからダウンロード出来ます。ぜひご活用ください。

<https://www.hoppou.go.jp/problem-info/kyozai/kyozai.html>

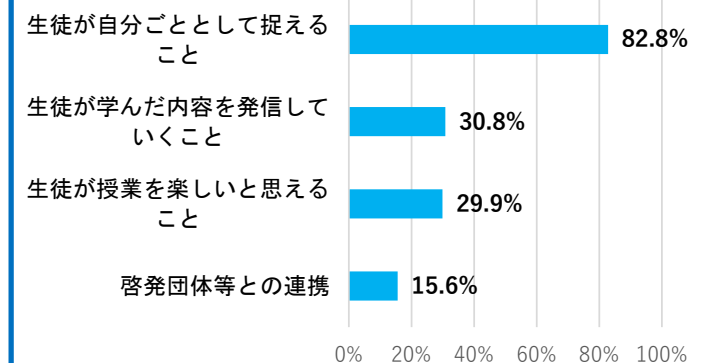
結果9 生徒たちが関心を持ち、正しく理解するために必要なこと（複数回答）（n=4,691）



結果8 あれば望ましい教材（複数回答）（n=4,691）



結果10 返還要求運動に繋がるために必要なこと（複数回答）（n=4,691）



調査結果概要 ～教育現場における啓発事業の認知度について～

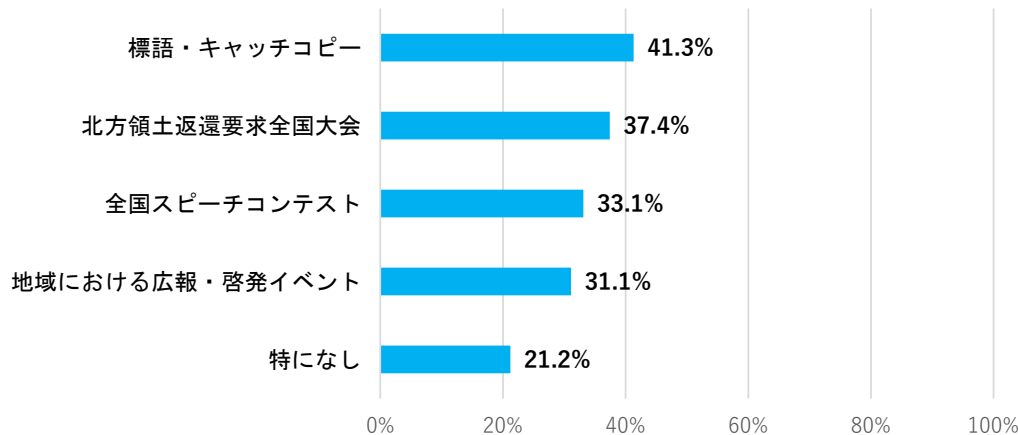
結果

- ◆啓発事業の認知度については、全国規模で実施している事業は3～4割程度の認識があるものの、2割は「特になし」との回答。（結果11）

今後に向けたポイント

- ◆啓発事業に**参加すること**が北方領土問題を
自分ごと化するための第一歩！
◆**身近で簡単な事業から**ぜひ参加を！

結果11 知っている啓発事業（複数回答）（n=4,691）



【事業の解説（上位3つ）】

・北方領土に関する標語・キャッチコピー

北方領土について広く国民に認識して頂き、北方領土返還要求の世論の喚起を促すことを目的に、ノベルティや啓発用パンフレット等各種広告媒体に活用する北方領土に関する標語・キャッチコピーを募集する公募型事業です。

・北方領土返還要求全国大会

昭和56年以来、毎年2月7日の「北方領土の日」に東京で開催される大会で、内閣総理大臣および各政党代表などが出席の下、政府と元島民、返還運動団体関係者、官民の関係者等が一堂に会し、北方領土の早期返還を求める固い決意を内外に表明します。

・北方領土に関する全国スピーチコンテスト

次代を担う若い世代（対象：中学生）が北方領土に関して学習したこと、友達や家族と話し合ったこと、体験したことなど自由な内容で発表し、北方領土問題に対して関心を持ち、正しく理解してもらうことを目的に実施する応募型事業です。

調査結果概要 ～教育現場における交流事業の認知度について～

結果

- ◆四島交流事業（ビザなし交流）は半数以上が「知っている」と回答。（結果12）
- ◆四島交流事業に参加したらやってみたいことは、「**島民の生活を知ること**」や「**島民と意見交換**」の順に関心が高い。（結果13）

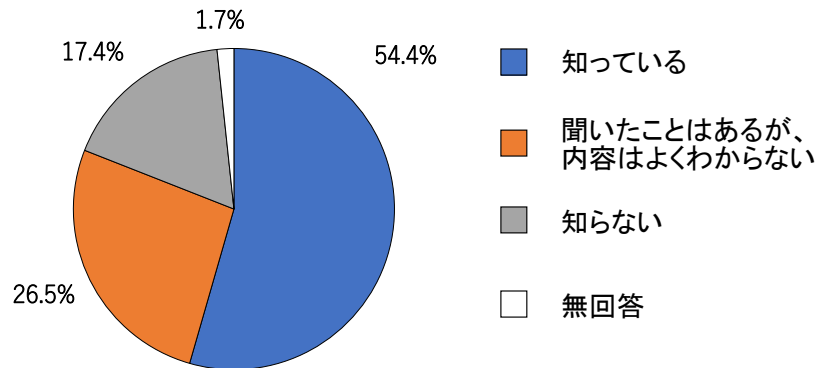


今後に向けたポイント

- ◆四島交流事業に参加したことのある方は、授業や総合学習の場で**積極的に得られた知見の共有**を！
- ◆知見が共有されることにより、四島交流事業への興味・関心を持つ方を増やし、**北方領土問題の認知度を向上させていく**ことが大切。

結果12 四島交流事業の認知度

(n=4,691)



結果13 四島交流事業でやってみたい企画（複数回答）

(n=1,782)

